

平成14年度試験研究成果書

区分	普及	題名	発育・肉質に優れた日本短角種優良種雄牛「勝富」 ^{かつとみ} の作出		
[要約] 平成13年度日本短角種産肉能力検定(間接法)を行った結果、「勝富」の日増体量・脂肪交雑等の成績が他の検定牛と比較して非常に優れたことから、人工授精用基幹種雄牛として選抜した。					
キーワード	日本短角種	種雄牛	産肉能力検定	畜産研究所 家畜育種研究室	

1 背景とねらい

産肉能力検定(直接法および間接法)の実施により、優れた能力を備えた種雄牛を造成し、それらを供用することにより、日本短角種の集団的な育種改良を推進する。

2 成果の内容

産肉能力検定(直接法)により、選抜された種雄牛候補牛について、その息牛を同一環境下で肥育する産肉能力検定(間接法)を行った。その結果、勝富の成績が、日増体量(1.23kg/日)、脂肪交雑(1.00)、ロース芯面積(53.0cm²)と非常に優れていたため、人工授精用基幹種雄牛として選抜し、今後の利用を促進する。

3 成果活用上の留意事項

(1) 勝富の概要

名号	登録番号	生年月日	直接検定		血 統	産地
			年度	D G		
勝 富	本 1415	H10.3.10	11	1.17	敏富(本 1214) 若花(本 772)	川井村

(2) 産肉能力検定(間接法)の検定期間

平成13年11月22日～平成14年9月26日(308日間)

(3) 昭和63年度終了分以降の間接検定成績と比較したところ、勝富は脂肪交雑で4位、ロース芯面積1位、日増体量は9位であった。

(4) 平成14年度の供用地は岩手県岩手郡玉山村

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

日本短角種飼養地帯

(2) 期待する活用効果

日本短角種の改良促進

5 当該事項に係る試験研究課題

(237)日本短角種産肉能力検定(間接法)(昭和48年度～)

6 参考資料・文献

日本短角種産肉能力検定検討会資料 独立行政法人家畜改良センター奥羽牧場他, 2002

7 試験成績の概要 (具体的なデータ)



図1 勝富号

登録番号；第 1415 号 (80.4 点)
 生年月日；平成 10 年 3 月 10 日
 産地；岩手県下閉伊郡川井村

血統

父
 敏富 (本1214)

母
 さわ

杉富 (本685)

富川 (予419)
 ふじいつ (予6540)

あきとし (本10138)

高光 (本379)
 あきまさ (予3527)

若花 (本772)

若波 (予601)
 ささはな (本2489)

はたひかり (予
 12394)

ひ
 耕床1212 (本502)
 とみはた (補8607)

表 1 勝富号産肉能力検定 (間接法) 成績

牛番号	1	2	3	4	5	6	7	8	平均
枝肉重量(kg)	396.4	474.0	370.2	427.8	397.4	434.8	459.2	460.6	427.6 ± 36.8
コース芯面積(cm ²)	51.4	55.2	53.3	53.5	50.3	57.2	51.7	51.0	53.0 ± 2.3
バラ厚 (cm)	7.5	8.2	6.7	6.9	7.1	7.3	7.8	7.7	7.4 ± 0.5
皮下脂肪 (cm)	2.9	4.1	4.1	3.8	3.1	3.2	5.0	2.5	3.6 ± 0.8
歩留基準値	73.5	72.4	72.5	72.2	72.9	73.4	71.1	73.2	72.7 ± 0.8
BMS	1.00	1.33	1.00	1.00	1.00	0.67	1.00	1.00	1.00 ± 0.18
格付	A-3	A-3	A-3	A-3	A-3	A-3	B-3	A-3	-

*各部位の測定及び格付は畜産研究所によるものである

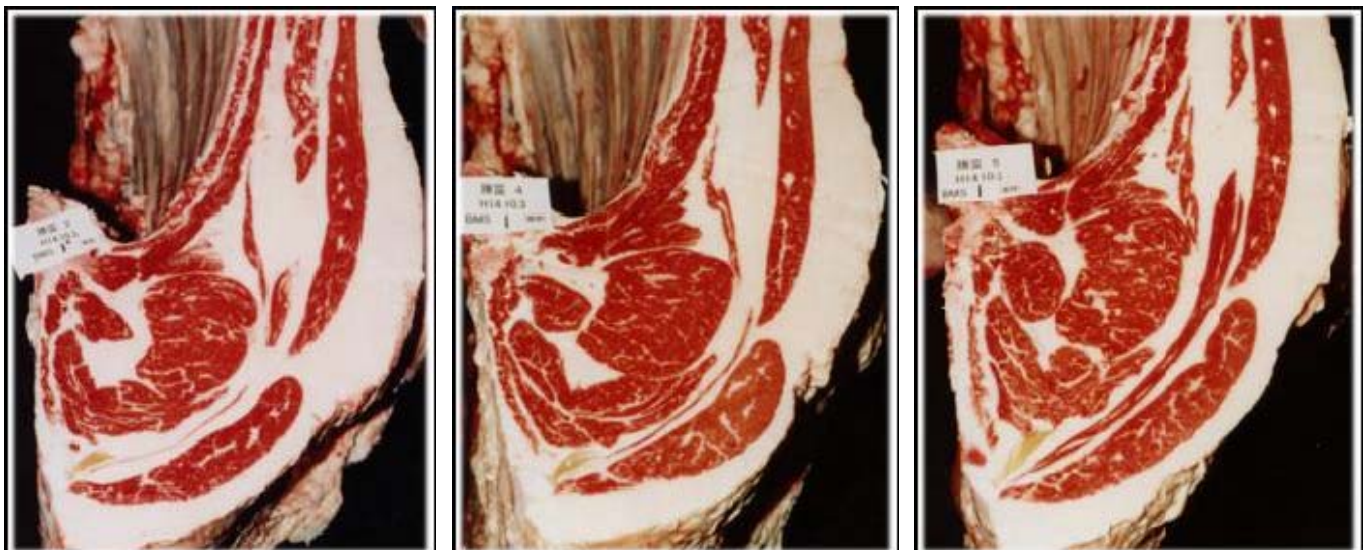


図2 産肉能力検定 (間接法) での枝肉 (左から 2 号・4 号・5 号)